

I. 基 礎 分 野

必修科目(1)

科目	教育学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	中村 美智太郎
----	-----	----	---	-----	----	-----	------	-----	---------

講義の概要および学習目標	<p>1. さまざまな困難をかかえる今日の教育問題を素材として、教育学の基本原理を歴史と思想のふたつの視点から学び、考えを深め、また自らの言葉で説明することができる。</p> <p>2. 私たちの社会における現在の子ども・おとなをめぐる諸環境について、その起源を探りながら認識を深め、人間を対象とする職業に従事する者として必要な基礎的知識の獲得と基本的資質の形成を図り、自らの言葉で説明することができる。</p>
講義内容	<p>1～4 人間形成と教育の意味…動物と人間/発達とは/教育とは/教育の逆機能</p> <p>5～6 教育の目的・理念(1)…教育目的/「よい」教育目的</p> <p>7 中間まとめ</p> <p>8～10 教育の目的・理念(2)…「学力」とは/「学力」を高める学習デザイン/学びの動機づけとディスカッションの方法</p> <p>11～12 教育思想の展開…古代から近代へ/近代から現代へ</p> <p>13～14 現代社会と教育の問題…教員の現状と国際比較/新しい教育方法の可能性</p> <p>15 最終まとめ</p>
評価法	<p>定期の筆記試験のほか、課題レポートの提出、出席状況および授業態度等による総合評価で行う</p>
受講生への要望	<p>講義の内容についての質問や疑問があれば授業中に積極的に発言してほしい。それができない場合は「質問票」を有効に活用してほしい。</p> <p>市販の教科書は使用しないで「テキスト資料」を配付するので、それを読んでおくようにしてほしい。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 特に指定しない</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 特に指定しないが、講義内で適宜紹介する</p>

必修科目(2)

科目	心 理 学	単 位	1	時 間 数	30	開 講 期	1年 後期	担 当 者	田 辺 肇
講義の概要および学習目標	<p>こころのケアや精神保健の領域に限らず、人の体験と行動がどのような過程を経て生じるのか、あるいはその過程にはどのような傾向や法則があるのか、について知ることは、看護実践を進める上で不可欠の知識といえる。</p> <p>本講義では、人の体験と行動の発生と発達の過程、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識の習得を目的とする。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学における人間理解①(心理学とは(心理現象と心理メカニズム、意識と行動)) 2 感覚と知覚 3 記憶・自己 4 心理学における人間理解②(研究法(共感的理解と客観的理解、理論とモデル、科学とエビデンス、相関と因果、調査と実験)) 5 思考・言語・知能 6 学習 7 感情と動機づけ・報酬系 8 性格とパーソナリティ 9 社会と集団 10 発達 11 心理臨床①(ストレス・アセスメント・精神障害) 12 心理臨床②(心理療法・危機介入・家族・コミュニティ) 13 医療・看護と心理 14 心理学における人間理解③(心理学史:心のモデル) 15 試験・まとめ 								
評価法	<p>終了試験(選択肢から選ぶ客観試験)の成績により評価する</p>								
受講生への要望	<p>毎回レスポンスシートの提出を求める。それに応じて授業を展開する。 好奇心をもって積極的に授業に参加して欲しい。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)系統看護学講座 基礎分野「心理学」／山村 豊 他／医学書院</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)新体系看護学全書 基礎科目 心理学／メヂカルフレンド社 2)はじめて出会う心理学[第3版]／長谷川寿一ら／有斐閣</p>								

必修科目(3)

科目	日本語表現	単位	1	時間数	20	開講期	1年 前期	担当者	武士俣 勝司
----	-------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	--------

講義の概要および学習目標	<p>将来、医療現場で、「いい仕事」をすることを通して、「いい人間」になることを目指して下さい。そのためには、医師、同僚看護師、技術者、そして患者さんとの対話・コミュニケーションが、何よりも大切です。きちんと聞き取ること、伝える事が求められます。会話だけでなく、しっかりとした文書による伝達も求められます。出来るだけ簡潔かつ的確に伝達されなければなりません。そのために用いられる「ことば」の意味と機能を理解しておく必要があります。</p>		
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1 医療と言葉 2 言葉の発生と意義 3 日本語の特性 4 二重言語の演習 5 日本文化の特性 6 文章の論理(1) 7 文章の論理(2) 8 ミニ論文の作成 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 9 論文の作成 10 日本語と敬語法(1) 11 日本語と敬語法(2) 12 文章表現法(1) 13 文章表現法(2) 14 コミュニケーションの方法と文書作成 15 最終レポート(看護と言葉) </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療と言葉 2 言葉の発生と意義 3 日本語の特性 4 二重言語の演習 5 日本文化の特性 6 文章の論理(1) 7 文章の論理(2) 8 ミニ論文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 9 論文の作成 10 日本語と敬語法(1) 11 日本語と敬語法(2) 12 文章表現法(1) 13 文章表現法(2) 14 コミュニケーションの方法と文書作成 15 最終レポート(看護と言葉)
<ul style="list-style-type: none"> 1 医療と言葉 2 言葉の発生と意義 3 日本語の特性 4 二重言語の演習 5 日本文化の特性 6 文章の論理(1) 7 文章の論理(2) 8 ミニ論文の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 9 論文の作成 10 日本語と敬語法(1) 11 日本語と敬語法(2) 12 文章表現法(1) 13 文章表現法(2) 14 コミュニケーションの方法と文書作成 15 最終レポート(看護と言葉) 		
評価法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間に書く「小レポート」の評価の集積と論文(3回)で評価します。 ・出席状況・授業態度等も評価に加味します。 		
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間終了後、講義のまとめ(小レポート: 200字程度)を書いて提出してもらいます。その内容を生かして、講義を組み立て、理解を深めていきます。小レポートは、毎時評価して返却します。その評価点の集積で単位認定するので、毎時の授業とレポートに集中して下さい。 ・授業中においては、携帯(電話)の使用は不可とします。 		
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p style="text-align: center;">授業時に配布する冊子</p>		
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>		

必修科目(4)

科目	ものの見方・考え方	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	宮地 祐司
----	-----------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>「見えない」ものを認識するにはどうしたらいいのか、どうすると本当のことがわかるのか、どうやったら問題を解決できるのか……などについての認識論や組織論の科学的・哲学的な入門とする。</p>
講義内容	<p>認識論、実験論、発想法、組織論などを「具体的な体験」を通して、考え、学んでいく。2日間の集中講義形式。具体的な講義項目を先に明らかにすると〈学ぶたのしさ〉が減退してしまうため、ここでは詳細はあえて記すことはしない。</p>
評価法	<p>講義の最後にまとめの試験を行う予定。</p>
受講生への要望	<p>情報の「消費者」だけではなく、情報の「生産者」となって欲しい。そのためには自分の意見と感性を率直に表現でき、自分や他人の間違いから学ぶ、ほんの少しの勇気を持って、しかし気楽に発言し授業に参加することを要望する。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>使用しない。講義の時にプリントを配布。</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)「新哲学入門」／板倉聖宣／仮説社 2)「発想法かるた」／板倉聖宣／仮説社 3)「科学的とはどういうことか」／板倉聖宣／仮説社</p>

必修科目(5)

科目	生物学	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	新里 昌功
講義の概要および学習目標	<p>生物学は、これから勉強する専門基礎分野・専門分野のすべての科目を学習するために共通して必要となる基礎科学です。生物学の目指すところは、生命を維持・継承するための巧妙なシステムの面白さを理解することにあります。そのためには、生命現象の原理原則を理解し、専門用語の意味を覚える必要があります。</p> <p>[学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生物・生命現象の一般原理・概念や基礎用語について理解を深め、生物学の基礎力をつける。 2 新たな医療技術や概念に接した際に、興味をもって理解し、さらに考える素養を養う。 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命と細胞 2 細胞、生体維持のエネルギー 3 細胞の増殖とからだのなりたち 4 遺伝情報 5 遺伝情報の伝達と発現のしくみ 6 変異、遺伝、遺伝子組換え 7 生殖と発生 8 個体の調節 9 免疫、排出、神経・液性相関 10 刺激の受容と行動 11 神経系の系統的発達、効果器、行動 12 生命の進化と多様性 13 生物と環境のかかわり 14 地球環境とヒトとの共存 15 まとめ 終了試験 								
評価法	筆記試験により評価します。								
受講生への要望	生物学では、ことばの意味を考えて覚えていきましょう。								
テキスト	書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 基礎分野「生物学」／増田 隆一 他／医学書院								
参考文献	書名／著者名／発行所								

必修科目(6)

科目	情報科学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	鐵 和 弘
----	------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>近年、情報化の波は医療・看護の分野にも及んでいます。そのため、看護の現場でも「情報リテラシー」を持つことが必要となってきており、日々の仕事において医療情報や患者情報の収集・分析・処理を行う能力が求められています。</p> <p>本講義では、講義のおよそ3分の2をPCと各種ソフト(Word, Excel, PowerPoint)を使った実習に充て、データの処理・分析に関する基礎的な技能の習得を目指します。その後の3分の1程度で、情報科学の基礎的な概念、医療・保健・看護の領域における情報化の事例、看護の現場で発生しうる情報保護等の法的・倫理的諸問題を取り上げ、重要な概念の理解と必要な知識の習得を目指します。</p>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 本講義のガイダンス:オリエンテーション、実習環境(機器等)の説明 2 実習① Wordを使った文書処理 3 実習② Wordを使った図形・オブジェクト操作等 4 情報と倫理(1)、Wordの利用に関する実習テスト 5 情報と倫理(2)、実習③ PowerPointの使用方法 6 情報と倫理(3)、実習④ Excelの利用とデータ収集 7 学生によるPowerPointを使用したプレゼンテーション大会 8 情報と倫理(4)、実習⑤ Excelを使用したデータの解析 9・10 情報と倫理(5)(6)、実習⑥⑦ Excelによる統計処理 11・12 実習⑧⑨ Excelを使ったデータベース操作 13 Excelの利用に関する実習テスト 14 情報科学の基礎、医療・看護領域における情報システム利用 15 期末試験 <p>(受講生の習熟度等を見た上で、順序や進度を変更することもあります)</p>
評価法	<p>期末試験(40%)、期中の課題(3回)提出(30%)、出席・受講姿勢等(30%)で評価します。</p>
受講生への要望	<p>15回の授業にただ出席するだけでは、看護に必要な情報関係の知識・技能を完全に習得することは困難です。したがって、講師がその都度指示する予習・復習と課題作成を確実に行ってください。また、PCによるデータ処理が苦手な人は、積極的に自習で補ってください。</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 別巻「看護情報学」／中山 和弘 他／医学書院 ※USBメモリ(学校専用)を使用するので持参してください。</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1) 「エッセンシャル看護情報学」／太田・前田編著／医歯薬出版 2) 「看護・医療系のための情報科学入門」／椎橋・有田／サイオ出版</p>

必修選択科目(7-1)

科目	健康とスポーツ ストレッチング	単位	1	時間 数	30	開 講 期	1年 後期	担 当 者	鈴木 しげこ
----	--------------------	----	---	---------	----	-------------	----------	-------------	--------

講義 の 概 要 お よ び 学 習 目 標	<p>健康(ヘルス)と、体力(フィットネス)の在り方を、体験し理解します。 単にキツイ・辛い運動ではなく、生涯に渡って楽しめる個人の体力差や嗜好性を考慮したストレッチ手法や、エンターテイメント性の高い様々なスタイルの運動を経験します。グループディスカッションで、仲間と交流しながら想像力を高め、人に寄り添う能力を養います。著名な運動指導者ピラティスが、世界一次大戦中に看護師をしながら運動も指導していたように、講義と実践を通じて健康観を高めます。</p>
講義 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ストレッチとは 効果と原理 自信が付くPNFストレッチ 2 アクティブストレッチ① 股関節(下肢) 3 アクティブストレッチ② 肩関節(上肢) 4 アクティブストレッチ③ 体幹部 5 エンターテイメント リズミックストレッチ①(Halloween編)※ 6 アクティブストレッチ まとめ 7 スタティクスストレッチとSMR①(頸部と腰) 8 スタティクスストレッチとSMR②(頸部と腰) 9 リズミックストレッチ②(Christmas編) 10 リズミックストレッチ③(Christmas編) グループテスト※ 11 身体と心と呼吸を繋ぐ①(ヨガとは?ピラティスとは?) 12 身体と心と呼吸を繋ぐ②(呼吸の原理) 13 身体と心と呼吸を繋ぐ③(バランスとプロプリオセプティブ固有受容感覚) 14 身体と心と呼吸を繋ぐ④(総合的ストレッチの実際) 15 全体を通してのまとめ パーソナルテスト ※印はスケジュールにより日程変更の可能性あり
評 価 法	<p>授業態度と理解力・出席状況等による総合評価 特に休まないことは、自己の健康管理が充分なされていることで、高く評価される。</p>
受 講 生 へ の 要 望	<p><持ち物> 筆記用具とタオルor手ぬぐい <服 装> 運動のできる服装(Gパン不可)、ナースシューズ <当 番> 鍵開け・デッキ準備・出欠席確認・忘れ物管理・消灯確認と施錠 ・フィジカル(肉体)な出来栄えより、積極的なアチチュード(受講態度)を高く評価します。 ・欠席・遅刻は止むを得ないケースを除き、大きく評価に影響します。 ・体調不良の欠席は、健康管理不十分として評価に影響します。座学受講可能な場合は欠席せず見学を勧めます。</p>
テ キ ス ト	<p>書名／著者名／発行所 使用しない</p>
参 考 文 献	<p>書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」／坂井 建雄 他／医学書院</p>

必修科目(7-2)

科目	健康とスポーツ 球 技	単 位	1	時 間 数	30	開 講 期	1年 後期	担 当 者	鉄 多加志
講義 の 概 要 お よ び 学 習 目 標	<p>科目名にある「健康」は、スポーツと運動していることが多く、それは習慣化することによって思いの他、恩恵を受けることができます。しかしながら、その習慣を上手く体得できないと、思いもよらぬ傷病に自分自身が苦しむこととなります。</p> <p>運動と頭脳の関係性は深く、適度なフィジカルトレーニングは能率的な勉学の支えにもなりますので、この授業が終えても継続的な自己研鑽を希望します。</p> <p>この「健康とスポーツ」では、日頃の運動不足を解消し、身体の健康や体力の向上・維持・増進をねらいとし、積極的に身体を動かすことで汗をかき、新陳代謝を活発にすると共に、心身に感じるストレスを解消させ、身近な運動を通じて身体を動かすことの楽しさや爽快感を知り、「生涯スポーツ」に繋がるような指導をします。</p> <p>最後に、人の健康をあずかる者は、自分自身が先んじて健康でなければなりません。看護の第一歩として、心身の健康について見つめなおす時間と考え、この授業を活用してみてください。</p>								
講義 内 容	<p>1時限 : オリエンテーション(授業内容の説明・・・健康とは何か? 運動の必要性、評価法等) * 以後の種目については、履修者の人数により変更する場合があります。</p> <p>2～3時限 : ボールを使った運動</p> <p>4～6時限 : グランドゴルフ</p> <p>7～10時限 : ドッジボール(練習・ゲーム)</p> <p>11～14時限 : テニス(基本練習から行い、未経験者でも楽しめるような指導します。)</p> <p>15時限: 総括と筆記試験</p> <p>* 雨天の場合は、屋内にて、呼吸法や自重負荷トレーニング、応急処置法を交えた講義を行う予定です。</p>								
評 価 法	<p>出席状況 (健康管理)、授業態度(取り組む姿勢等)による総合的な評価をします。 運動能力の優劣については重要視しません。</p>								
受 講 生 へ の 要 望	<p>運動に適した服装(ジャージやスエットの上下等)、運動靴(外用)、を用意して下さい。 極力、見学や欠席をせずに、楽しく積極的に身体を動かすように各自、取り組んで下さい。</p> <p>※詳細は、初回のオリエンテーションにおいて説明をします。</p>								
テ キ ス ト	<p>書名／著者名／発行所 指定書籍なし</p>								
参 考 文 献	<p>書名／著者名／発行所 健康・フィットネスと生涯スポーツ/東海大学一般体育研究室/大修館書店</p>								

必修科目(8)

科目	生命倫理学	単位	1	時間数	15	開講期	3年 前期	担当者	浜渦 辰二
----	-------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>看護学生にとって必要な生命倫理学の基本的な問題を紹介し、ともに考える。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護にとっての生命倫理の大切さを学ぶ。 2. 歴史を踏まえながら 現代医療において何が問題になっているかを学ぶ。 3. 具体的な場面と原理的な考察とを往復しながら考えることを学ぶ。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学とは 2. 生命倫理学とは 3. 不妊治療 4. 出生前診断と人工妊娠中絶 5. 終末期医療 6. 脳死と移植医療 7. 遺伝子医療と医療制度 8. 看護倫理
評価法	積極的な授業参加と筆記試験
受講生への要望	問題を解決するマニュアルを求めるのではなく、問題を自分で考え、みんなと一緒に考えることを学んで欲しい。
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>系統看護学講座 別巻 「看護倫理」／宮坂道夫ほか／医学書院</p>
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(9)

科目	家族社会学	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	冬木 春子
----	-------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>現代において、日本の家族が直面している問題を社会の変化に関連づけながら学習し、これからの家族関係や地域社会のあり方について考えることをねらいとする。授業を通じて、これまで抱えている家族イメージから離れ、家族を見る方法を取得し、家族と社会の実態についての理解を深めてもらいたい。</p>		
講義内容	<p>下記のテーマについて授業を行う。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1 「家族」とは何か 2 社会変動と家族の変化① 3 社会変動と家族の変化② 4 社会変動と家族の変化③ 5 配偶者選択 6 産む、産まないということ 7 ドメスティックバイオレンス </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 8 離婚・再婚と家族 9 母親の子育て 10 父親の子育て 11 貧困と社会 12 エコマップを用いた家族援助 13 現代家族とストレス 14 高齢社会と家族 15 テスト </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> 1 「家族」とは何か 2 社会変動と家族の変化① 3 社会変動と家族の変化② 4 社会変動と家族の変化③ 5 配偶者選択 6 産む、産まないということ 7 ドメスティックバイオレンス 	<ul style="list-style-type: none"> 8 離婚・再婚と家族 9 母親の子育て 10 父親の子育て 11 貧困と社会 12 エコマップを用いた家族援助 13 現代家族とストレス 14 高齢社会と家族 15 テスト
<ul style="list-style-type: none"> 1 「家族」とは何か 2 社会変動と家族の変化① 3 社会変動と家族の変化② 4 社会変動と家族の変化③ 5 配偶者選択 6 産む、産まないということ 7 ドメスティックバイオレンス 	<ul style="list-style-type: none"> 8 離婚・再婚と家族 9 母親の子育て 10 父親の子育て 11 貧困と社会 12 エコマップを用いた家族援助 13 現代家族とストレス 14 高齢社会と家族 15 テスト 		
評価法	<p>授業への参加度、期末テストを総合して評価をします。</p>		
受講生への要望	<p>内容は一部変更することもあります。 質問は授業終了後にお願いします。 グループワークなども行いますので、積極的に授業に参加をして下さい。 予習・復習は教科書の該当するページを指定しますので、それを読んで下さい。</p>		
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1)三訂 新しい家族関係学 /長津 美代子 他/建帛社</p>		
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1)系統看護学講座 別巻「家族看護学」/上別府圭子 他/医学書院 2)「問いからはじめる家族社会学」/岩間 暁子 他/有斐閣</p>		

必修科目(10)

科目	暮らしと健康	単位	1	時間数	20	開講期	1年 後期	担当者	牧野 陽子
講義の概要および学習目標	<p>自立した生活者としての社会で生活していくために必要な基礎的な、家族関係、食生活、衣生活、住生活、社会通念としての一般常識を学習することを目的とします。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭生活の経営と管理・家族とは、家族の機能、経営 2 衣生活・衣服の役割と機能、TPOと衣服選択、管理 3 食生活・食とは、食生活の変遷、健康と栄養、環境と食 4 住生活・日本の住居の変遷、住まいの機能、生活と住まい 一般常識・社会での常識、通過儀礼 								
評価法	出席状況、授業態度、課題提出等による総合評価で行う。								
受講生への要望									
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)福祉ライブラリ生活支援の家政学／井上千津子 他編著／建帛社</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)「辰巳芳子のことことふっくらまめ料理」／辰巳芳子／農文協</p> <p>2)「あなたのためにーいのちを支えるスープ」／辰巳芳子／文化出版局</p> <p>3)「窓を開けなくなった日本人ー住まい方の変化六〇年」／渡辺光雄／農山漁村文化協会</p> <p>4)メント・モリ／日野原重明／海竜社</p> <p>5)ナイチンゲールの「看護覚え書」／金井一薫／西東社</p>								

必修選択科目(11-1)

科目	外国語会話 英会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	Bruce Cunningham
講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話の基本文法の習得 ・日常会話における単語学習 ・リスニング習得 ・英語での問答 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 形容詞を使った説明文 3 名詞と副詞の使い方 4 前置詞の使い方 5 道案内 6 動詞の変化 過去 過去分詞 								
評価法	スピーキングテスト 説明能力 質問文作成能力 質問の答え方								
受講生への要望	積極的にクラスに参加し会話する。 授業に集中し楽しくクラスに参加する。								
テキスト	書名／著者名／発行所 1) Speaking of Nursing / Peter Vincent , Alan Meadows / 南雲堂								
参考文献	書名／著者名／発行所								

必修選択科目(11-3)

科目	外国語会話 中国語会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	趙 湘紅
----	----------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	------

講義の概要および学習目標	簡単な中国語会話の勉強を通じて、中国の文化、風土、地理などを学ぶ。
講義内容	1・2・3 発音の基本の紹介 4・5・6 あいさつ、自己紹介、時刻の言い方 7・8 動詞、形容詞の述語文の使い方 9・10 疑問文、否定文などの使い方 11・12・13・14 日常会話場面練習 15 テスト
評価法	会話練習中心の授業なので、日常の出席状況を重視する。 期末筆記試験のほか、出席状況、授業態度等による総合評価で行う。
受講生への要望	遅刻せず、休まず出席すること。 授業中積極的に会話に参加すること。 時間外に自習を行い、練習時間不足を補ったほうが良い。
テキスト	書名／著者名／発行所 1)「新ゼロからスタート 中国語会話編CD付」／壬丹／Jリサーチ出版 2)「デイリーコンサイス 中日・日中辞典」／杉本達夫・牧野英二・古屋昭弘[共編]／三省堂 *2)については、学校所有の辞書を使用するため、個人で購入する必要はありません
参考文献	書名／著者名／発行所

必修科目(12)

科目	英 語	単 位	1	時 間 数	30	開 講 期	2年 前期	担 当 者	河村 道彦
----	-----	--------	---	-------------	----	-------------	----------	-------------	-------

講義の概要および学習目標	<p>医学・医療の国際化とともに医療従事者の英語力の養成が求められている。このコースは看護学生に必要な基本的な英語の知識と医療・看護に関わる語彙、表現を身につけ、簡単な英文の理解、表現ができるようになることを目標とする。</p>
講義内容	<p>英語の基本的な発音、語彙、文法事項の確認 看護英語の表現・語彙の導入 医療現場におけるモデル会話とその演習</p>
評価法	<p>中間テスト、期末テスト各50%の割合で評価したものを基本とし、平常点にもとづき、これに最大10%の加減を行う。</p>
受講生への要望	<p>①毎時きちんと予習をして授業に臨むこと ②授業には辞書を持参し、意味や発音の分からない語は、その都度調べること ③授業や予復習において不明な点があれば質問すること</p>
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1)Lifesaver, New Edition /Maki Inoue, Toshiya Sato/ネリーズ</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>

必修科目(13)

科目	人間関係論	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	中川 雄真
----	-------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>授業では、講義中心に対人関係に纏わる人間の心理を理解する上での重要な理論を説明する。適宜、「自己理解」「他者理解」「集団理解」を目的としたグループ討論・事例検討を行う予定である。</p> <p>「講義の目標」 看護場面では、日常場面における人間関係とは異なる特殊な関係性が生まれる。また、看護場面における特殊な人間関係には、ポジティブな面だけでなくネガティブな面も顕著に現れる可能性がある。したがって、人間関係論では、日常場面から看護場面に至る人間関係の心理を概観し理解を深め、円滑な人間関係を構築できるようなスキルを習得することを目指す。</p>
講義内容	<p>第1回 人間関係の多様性 第2回 人間関係の中の自己と他者 第3回 対人関係と役割 第4回 態度と対人行動 第5回 集団と個人 第6回 コミュニケーション 第7回 カウンセリングと心理療法 第8回 コーチング 第9回 アサーティブ-コミュニケーション 第10回 保健医療チームの人間関係 第11回 患者を支える人間関係 第12回 家族を含めた人間関係 第13回 地域をつくる人間関係 第14回 カウンセリングの事例検討 第15回 人間関係論の総括 定期試験</p>
評価法	定期試験60%、レポート20%、授業態度20%
受講生への要望	積極的な参加を求めます。
テキスト	書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 基礎分野 「人間関係論」／石川 ひろの／医学書院
参考文献	

必修科目(14)

科目	ピア・サポート論	単位	1	時間数	15	開講期	1年前期	担当者	山口 権治
講義の概要および学習目標	<p>ピア・サポート、カウンセリングの基礎及び技法を学習します。体験学習の過程で、ピア・サポート、構成的エンカウンター、ソーシャルスキルなどを通じて、人間理解と他者支援の実践的な態度の養成を図ります。ロールプレイでは、振り返りにより実習の深まりを評価検討します。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ワークを通じて自己理解、他者理解、相互理解を深め良好な人間関係を構築する 2 傾聴・アサーショントレーニングを通じて対人援助の基本スキルを習得する 3 問題解決スキル、対立解消スキルを学び他者を支援する実践力を習得する 								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・人間関係づくり 2 双方向でコミュニケーションが成り立つことに気づく、上手な伝え方を学ぶ 3 くり返しの技法と要約の技法を学ぶ 4 上手な頼み方・断り方、アイメッセージで自分の気持ちを伝えることができるようにする 5 視覚・聴覚・身体覚入力チャンネルを合わせることで信頼関係を築くことを学ぶ 6 傾聴技法、質問技法、ブレインストーミングを活用して問題解決スキルを学ぶ 7 傾聴技法を使って対立の解消の仕方を学ぶ 8 エゴグラムシートを使い自分の心の癖を知る・感情コントロールの方法を学ぶ 								
評価法	レポート、授業態度、出欠席など総合的に評価します。								
受講生への要望	小講義と実習の形で授業が進みます。特に、演習が多いので、体調を整えて意欲をもって授業に参加してください。								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)ピア・サポートを生かした学級づくりプログラム／山口 権治／明治図書</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)不登校いじめを起こさない集団づくりーピア・サポートに学ぶー／山口 権治／公益財団法人 モラロジー研究所</p>								